

【質疑】一般会計の実質単年度収支額が、2億7465万余円の赤字計上であるが、総括は。

【答弁】この赤字は令和5年度と比較すると、3億5692万4千円の減額となっており、歳出決算額の中には、公共施設の老朽化対策など、都市基盤整備に活用できる積立金である。都市整備基金の増額も含まれているので、将来への備えにも対応したうえで収支の状況が改善できた決算であったと理解している。

収支状況改善の主な要因は、市税やふるさと納税寄付金の増加によるものであり、これらが大きく伸びたということ、企業の業績の伸びや設備投資の増加、そしてステイプロモーションの二環として本市や本市産品の魅力発信に継続的に取り組んできた成果だと考えている。

◎令和6年度白石市病院事業会計決算の認定について

【質疑】病院事業会計において、令和6年度より令和10年度までの期間で「公立刈田綜合病院経営強化プラン」に取り組んでいるが、令和6年度の効果検証をどのように行なっているのか。

【答弁】医療関係者や福祉事業者等で組織する「公立刈田綜合病院経営強化・サービス評価委員会」を令和5年10月30日に設置しており「強化プラン」の点検・評価をこの委員会を実施し、結果については市のホームページで公表することとしている。令和6年度実績の点検・評価にかかる委員会については、本年11月に開催する予定としており、内容については「経営強化プラン」に掲げた指定管理者による管理・運営上の取り組みの状況や数値目標の達成度などを評価していただくことを考えている。

決算審査特別委員会

第50号議案・令和6年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定についてから第52号議案・令和6年度白石市病院事業会計決算の認定についての3議案は、定例会4日目（9月11日）の本会議において質疑が行われた後、議長および監査委員（四龍英夫）を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会（委員長・伊藤勝美、副委員長・大内卓也）は、9月19日・22日の2日間にわたり審査を行い、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決及び認定しました。審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

◎白石市民バス運行管理事業・運行状況

【質疑】利用者が前年度と比較して増加した理由は。

【答弁】新型コロナウイルス感染症が令和5年5月から5類感染症に移行したことにより、公共交通機関の使用が徐々に回復傾向にあったことに加え、令和6年4月から商業施設敷地内へまちなか循環便のバス停留

増やすなど、寄付受入環境の拡充による寄付者の利便性の向上を図るとともに、市内事業所の皆さまには、魅力ある地元特産品を返礼品として準備いただいていることから、本市の返礼品の認知度が向上したことによるものと考えている。

また夏場を中心に猛暑が続いたことから、アイスクリームを返礼品とする寄付が好調であったことに加え、例年ふるさと納税の寄付が集中する11月および12月の駆け込み時期に各寄付受入ポータルサイトにおいて、本市のアイスクリームが常に上位にランキングされていたことも良い影響を及ぼし、過去最高の寄付額となる大きな要因になったものと考えている。

◎定住促進事業

【質疑】移住フェアへの参加により、U・I・ターンを検討している首都圏在住者に対し情報発信を行い、実際に移住に結びつけたことがあるのか。

【答弁】移住フェア終了後には、各種イベントなどの案内を

◎ふるさと納税推進事業

【質疑】ふるさと納税寄付金が過去最高の8億8500万円となった主な要因は。

【答弁】寄付受入ポータルサイトを7サイトから12サイトに

所を設置したことが要因であると捉えている。

【質疑】今後、利用者を増やしていくため、どのように取り組んでいくのか。

【答弁】「白石市地域公共交通計画」に基づき、市民の皆さまと地域のニーズにあった持続可能な公共交通ネットワークを構築していく。